

郡勢力村天皇屋形山、同國板野郡大寺村金泉寺、同郡里村、淡路國三原郡中島村、津名郡柳澤村ともに七所は、山陵のよしまうし傳ふるといへども、何帝の陵なる事たしかならず、もしくは南朝の陵にもあるべければ、これも垣牆をまうけしむとなり。

〔三老略傳〕柳澤氏、廣澤○知慎細井先生に武備を任す、○中添るに天下の寺社の事を司らしむ、天下大小となく柳澤氏に歸す故なり、時に朝廷上古の諸陵、亂世を經し故やらん大に廢し、其處を失ひ、其號名をも失ひ、破たる御陵なぞを鬼陵なぞ、號し、農民穢すもの多し、廣澤先生其兄細井甚藏（芝山）是を歎じ、廣澤先生をして公に告て、此時より初めて諸陵周垣の絶たるを繼、廢たるを起したる事舉て數ふべからず、諸陵周垣の記あり、九臯先生○知文家藏なり。

〔先哲叢談後編三〕細井廣澤

名知慎、字公謹、號廣澤○略中通稱次郎大夫、遠江人、仕于河越侯○松平守吉、後給仕于幕府○中廣澤仕舊貫班格該管隸屬等之故、嘗歎保元以降六百年、累帝諸陵、屢經兵燹、失其所在、既不知其陵者二十五、告之侯建議、據古史紀傳所錄、搜索其不可知者、果皆得其所在、而後修葺其屋宇、或造石垣、三年諸陵全成焉、實可謂繼廢興絕也、故當時命諸臣修撰歷代諸陵修垣實記五十卷、其事皆本於廣澤所建議矣云。

〔寶山外志〕二條陵，在船岡東北一町、元祿戊寅、公府修陵、○天瑞

〔寶石類書百二十一〕御代々御陵

八十一帝陵場所

八十二ヶ所内

嵯峨 淳和 冷泉 後鳥羽 土御門 龜山

右六帝葬所藏所、或車口ト申傳テ、二ヶ所有之、

嵯峨 土御門 後嵯峨 後光嚴 後圓融